

第二十四師團史實資料 目次

第一、第二十四師團履歷の概要

第二、作戰前の状況

一、動員下台より沖繩本島上陸迄

二、沖繩本島上陸より原駐地出發島尻地區轉移迄

三、島尻地區到着より敵沖繩本島進攻初期迄

第三、作戰經過の概要

一、敵本島進攻初期より原駐地出發首里地區轉移迄

二、首里戰線撤退より島尻地區轉移進終了迄

三、島尻地到着より作戰終了迄

第二十四師團主要職員表

感狀寫

第一、第二十四師團履歴の概要

一、昭和十四年八月哈爾濱に於て師團を編制同年十二月東安省東安に移  
轉爾來國境警備に任ず

二、昭和十九年七月六日動員下令七月十三日動員完結

師團編制の中歩兵(一大欠)砲兵(一大欠)衛生隊並に野病院

三、各部隊は自七月十三日東安及揚崗を出發す

四、各部隊は自七月十九日下關及門司に上陸後北九州各地に分散集

結を變換して下關及門司に宿營す

五、第六、第四野戰病院門司に於て師團編制に入る

六、七月二十四日沖繩本島に前進を命ぜられ

七、八月一日師團搭乗の船門司、下關を出發す

八、八月五日、六日沖繩本島に上陸す

九、中頭郡に進駐警備に就く(師團司令部は嘉手納に位置す)

九、自 八月二日 中頭地區の警備陣地構築並に教育訓練を実施す  
至十二月初旬

二十月十日敵の初空襲を受く中頭地區中央の一六〇高地に戰鬥司令所を移轉す

二十二十年二月十一日歩兵聯隊其の他編制改正實施

十、第九師團の轉進に伴ひ師團は之が防衛並に警備を繼承し十二月十日乃至十二日原駐地由發島尻地區に移駐す

十一、十二月中旬より三月末迄専ら築城を實施す此の間敵機の偵察屢々な

り  
二十二十年三月二十三日敵機動部隊現出艦載機による空襲を受く  
甲號戰備下令戰鬥部署に就く

十二、四月一日敵は北飛行場正面より上陸を開始す

十三、四月十一日歩兵第二十二聯隊第六十二師團長の指揮下に入り戦線に  
参加す

十四、四月 日師團は第六十二師團の右翼の線に進出敵を攻撃すべく命ぜ

る

十五、四月二十日戰鬥司令所津嘉山に進出各部隊 自四月二十日 間逐次前

進首里前線に到着す

十六、四月二十九日戰鬥司令所を首里城軍司令部陣地内に移轉す

十七、五月四日總攻撃を開始敵を壓迫前進せるも兵員の損耗甚からざるに  
より作戰變更攻撃前線地に據り持久態勢に轉移す

十八、自五月四日至五月中旬夜襲斬込等により敵の出血を強要しつつ戰鬥  
を繼續す

十九、五月二十七日頃右翼方面即ち那覇與那原方面に敵は進出に奏效す

二十、師團は五月二十九日發島尻前部丘陵地帯に據り更に戰略持久の態勢を  
強化するため島尻地區に轉進を開始す

二十一、六月二日戰鬥司令所新垣に前進更に六日甲江城に前進す第一線部隊  
は西海岸より國吉大里與里八重嶺嶽の線に陣地を占領し陣地の強化  
に努力を傾注す

二十五 六月十日八重瀬嶽與盛嶽中間地區より敵攻撃を開始せるも撃退す

二十六 自六月十四日一五七高地前面より進出強力に搜索第二十四師隊力戦  
至六月十七日 防禦す

防禦す

二十七 六月十七日敵我が全面接觸攻撃を加ふ

二十八 六月二十三日各部隊間と師團司令部間通信連絡杜絶し統一的戦斗指揮不能となり部隊各個の戦斗に移る

二十九 六月二十四日中央地區防備の諸部隊敵攻撃を受く

(S.K.O. Hei. の一部  
T. 42A)

三十 六月三十日甲江城戦斗司令部所陣地内に於て師團長以下幕僚部長等目  
刃す

### 第二十四師團史實調査資料

#### 第三作戦前の状況

一 動員下令より沖縄本島上陸迄

一 師團は滿洲東安附近の警備に任じありしが昭和十九年七月六日動員令を下令せられ同十三日完結同十五日より逐次東安附近出發同二十四日前後下關門司に集結八月一日同地出發八月五日乃至六日に直り那覇及渡具知四附近に上陸を完了す

二 沖縄本島上陸より原駐地出發島尻地區轉移迄

二 師團は軍の一翼として中頭地區を占領警備すべき軍命令に基き概ね左記要圖第一の如く各部隊を配置し同地區の警備に任じつつ築城教育訓練等に専念し作戦準備の完璧を期す

三 警備は良好に維持せられたり

四 陣地は凡て洞窟式とし野戦陣地を併用し將兵の努力により陣地は概ね完成し敵何時進行し來るも可なる状況に達しあり